

岡崎市

山車まつり情報

岡崎市には山車まつりが5つあり、それぞれ地元で密着して執り行われています。須賀神社春の大祭は、江戸末期から行われており、山車とともに市指定無形民俗文化財に指定され、各組ごとに受け継がれるお囃子が特徴的です。矢作神社祭礼の矢作二区、三区の山車は江戸期の建造で、市指定有形民俗文化財となっています。さらに能見神明宮例大祭は、江戸中期から続く祭礼で、8台の山車によるお囃子や踊りが披露されます。また本宿町夏祭りでは4台の山車の行列が旧東海道を練り歩きます。岡崎の花火で有名な、菅生祭鉾船神事奉納花火では、2艘の鉾船が祭りの賑わいを醸し出します。

情報の見方

地区名

まつり名称

祭礼場所

祭礼場所の住所

山車名称(組名等)

よみがな

山車等の特徴



矢作二区

矢作神社例大祭

矢作神社

岡崎市矢作町宝珠庵1

東中之切山車(矢作二区)

ひがしなかのきれだし

建造時期：文化11年(瀬川重光ら)。彫刻「牛若丸・烏天狗」「昇り龍・降り龍」「雲波」「唐獅子・猊」「雲水親子龍」「雲鶴」「松・孔雀」「布袋・唐子・宝尽し」等があり、全て彩色金彩。



矢作三区

矢作神社例大祭

矢作神社

岡崎市矢作町宝珠庵1

西中乃切山車(矢作三区)

にしなかのきれだし

建造時期：天保10年(瀬川重定ら)。彫刻「楠正成松井の別れ」(鬼板)、「三羽の鳳凰」(懸魚)、「波」「竜」(欄間と飾り台)等。大幕は、黒地に金糸銀糸を用いた竜(目に玉、爪に銀板)と波。



能見神明宮氏子11町

神明宮例大祭

神明宮

岡崎市元能見町42-1

元能見北・城北・柿田町山車(能見北)

もとのみきた・じょうほく・かきたちょうだし

建造時期：不明。昭和31年材木町から譲り受けた。山車前面は彩色箔押しされた彫刻で装飾。明治頃までは二・三階建てでしたが、道路事情や電灯、電話の引込線等のため現在の形に改造された。



能見神明宮氏子11町

神明宮例大祭

神明宮

岡崎市元能見町42-1

能見北之切山車(能見北)

のみきたのきりだし

建造時期：江戸後期に建造された高層式山車を明治中期及び昭和31年に改造。櫓箱上山笠形、中備等の彫刻は文政5年瀬川治助重定の作で主題は「雲水龍」、「波文」、「唐獅子」、「雲鶴」等である。山車前面より舞台を引出し子どもによる踊りを披露。



能見神明宮氏子11町

神明宮例大祭

神明宮

岡崎市元能見町42-1

能見中之切山車(能見中)

のみなかのきりだし

建造時期：昭和28年。彫刻「鳳凰」、「龍」(懸魚)、「連」、「鶴」(欄間)等。水引幕に赤地に能見中之切、腰幕に紺地に阿吽の獅子、見返り幕に赤地に能中。前面の引出し式の舞台上子供たちが日本舞踊を氏子町内で披露。



能見神明宮氏子11町

神明宮例大祭

神明宮

岡崎市元能見町42-1

能見南之切山車(能見南)

のみみなみのきりだし

建造時期：明治初期。各所に極彩色の彫刻。前面の柱には「昇龍下龍」の目にさらしが巻かれており、これを外すと祭礼に雨が降るという言い伝えがある。辰年に巻き変えられる。山車から簡易舞台を引出し、踊子連が3曲ほど披露。



能見神明宮氏子11町

神明宮例大祭

神明宮

岡崎市元能見町42-1

材木二丁目山車(材木二丁目)

ざいもくにちょうめだし

建造時期：大正4年。黒・赤の漆塗り。彫刻「獅子」、「龍」、「象」、「仁王像」、「狛犬」等。天井には昇り龍を中心に彩色された四季の花鳥がとり巻く天井絵が描かれている。山車の前面から引き出された舞台上で手踊りを披露。



能見神明宮氏子11町

神明宮例大祭

神明宮

岡崎市元能見町42-1

松本町山車(松本町)

まつもとちょうめだし

建造時期：昭和35年。各所に「矢作橋行列図」や「天の岩戸図」等(江戸兵衛)の彫刻。平成14年、二世代前の山車に飾られていた彫刻「陰陽の龍」が復活。前面から引き出された舞台上で手踊りを披露。



能見神明宮氏子 11 町
神明宮例大祭
神明宮
岡崎市元能見町 42-1

元能見中町山車 (元能見中町)

もとのみなかまちだし

建造時期：昭和 26 年（花車）、昭和 28 年改造。正面に「牡丹」の彫刻。左右に「神文五三の桐」の透かし彫りにし牡丹の花・藤の花の友禅夢樹の行灯仕立。友禅夢樹（久恒俊治）の行灯は全国伝統的工芸品に入選。舞台を引き出し、手踊り披露。



能見神明宮氏子 11 町
神明宮例大祭
神明宮
岡崎市元能見町 42-1

元能見南町山車 (元能見南町)

もとのみなみなまちだし

建造時期：昭和 33 年。総白木造りで一本の釘も使われていない。天井の真中に「龍」の彫刻。外側の前面と側面にも「龍」の彫刻が配置。引き出した舞台の上で子供たち（小学生以下）が踊りを披露。



榎山
須賀神社春の大祭
須賀神社
岡崎市榎山町宮前 84

新若丸 (新居野組)

しんわかまる

建造時期：平成 10 年。前の山車が老朽化のため、新造する。明治 28 年に舟形の山車を築造しており、名称はその名残。歌舞伎芝居に因んだ「六方・鎧引・甚六・祇園ばやし」などがある。宮入で坂を登る時に「鎧引」を景気よく演奏する。



榎山
須賀神社春の大祭
須賀神社
岡崎市榎山町宮前 84

龍神丸 (原組)

りゅうじんまる

建造時期：不明（まつりは江戸時代から続く）。前の山車が明治 26 年の火事で焼失。明治 28 年以降に造られた。両柱に白木の「手長足長」の彫物、前山車下段に「龍神」の彫刻。お囃子は山車がゆっくり進む時、宮入時それぞれの曲目がある。



榎山
須賀神社春の大祭
須賀神社
岡崎市榎山町宮前 84

恵比寿丸 (仲組)

えびすまる

建造時期：不明（まつりは江戸時代から行われている）。明治 26 年火事で焼失。明治 28 年ごろ、能見神明宮の山車を購入した。鬼板に金箔を貼り「恵比寿」彫刻、前山車の扉と下山の彫刻周囲に螺鈿細工が施される。



榎山
須賀神社春の大祭
須賀神社
岡崎市榎山町宮前 84

鳳凰丸 (庄野組)

ほうおうまる

建造時期：不明（まつりは江戸時代から行われている）。能見神明宮の山車を購入したと伝わる。お囃子は宮出時に「五号」・宮入時「四号」・道行時「二号・六号」を演奏する。



榎山
須賀神社春の大祭
須賀神社
岡崎市榎山町宮前 84

花組車 (河瀬組・宮北市組合同)

はなぐみしゃ

建造時期：不明（まつりは江戸時代から行われている）。花の造花・時期によっては桜の生花にて全車を飾るため、花組車と呼ばれている。かつては余興を担当したが、この役割が無くなり、山車として加えた。



菅生神社氏子 10 町
菅生祭 鉾船神事 奉納花火
菅生神社及び乙川河川敷
岡崎市康生町 630-1

天王丸

てんのうまる

建造時期：不明。川に長さ 20m の川舟 2 隻をつなぎ合わせ、その上に 3 層の楼を築いた鉾船（車楽船）を浮かべる。戦後鉄筋で造られた。



菅生神社氏子 10 町
菅生祭 鉾船神事 奉納花火
菅生神社及び乙川河川敷
岡崎市康生町 630-1

菅生丸

すこうまる

建造時期：不明。川に長さ 20m の川舟 2 隻をつなぎ合わせ、その上に 3 層の楼を築いた鉾船（車楽船）を浮かべる。



本宿町
本宿町夏まつり
津島社
岡崎市本宿町森ノ腰 23

栄町山車 (栄町)

さかえまちだし

建造時期：昭和 10 年。正面脇障子に「龍虎」の彫刻、後方脇障子に「竹雀」の彫刻。古くはちょうちん祭と呼ばれ、神輿と各字の提灯行列だった。各町梵天を持ち山車前を歩く。行列のお練りによって疫病を払うとされる。



本宿町
本宿町夏まつり
津島社
岡崎市本宿町森ノ腰23

西町山車(西町)

にしまちだし

建造時期：昭和25年。正面脇障子に「鳳凰」、後方脇障子に「竹雀」の透かし彫刻。古くはちょうちん祭と呼ばれ、神輿と各字の提灯行列だった。戦前に栄町、戦後になって、西町、中町、東町(再建)の順に建造。各町梵天を持ち山車前を歩く。



本宿町
本宿町夏まつり
津島社
岡崎市本宿町森ノ腰23

中町山車(中町)

なかまちだし

建造時期：昭和27年。正面脇障子に「虎」、後方脇障子に「獅子」の彫刻。古くはちょうちん祭と呼ばれ、神輿と各字の提灯行列だった。戦前に栄町、戦後になって、西町、中町、東町(再建)の順に建造。各町梵天を持ち山車前を歩く。



本宿町
本宿町夏まつり
津島社
岡崎市本宿町森ノ腰23

東町山車(東町)

ひがしまちだし

建造時期：不明。祭りは近世に東町立場より始まり、元祖ともいわれる山車もあった。昭和29年再建の山車は伊勢湾台風での破損により、一時期トラックで巡行。昭和63年に木造の山車を再建する。お練によって厄病を払うとされる。

碧南市

山車まつり情報

碧南市には山車まつりが2つあります。1つは大浜中区祭礼で、中之切車・浦島車の2両の山車が、同区の稲荷社の祭礼を盛り上げます。もう1つは鶴ヶ崎区祭礼で、玉車という山車が、同区の山神社・浅間社の祭礼を盛り上げます。大浜中区の中之切車は天明8年(1788年)に、鶴ヶ崎区の玉車は元治元年(1864年)に、それぞれ海を挟んだ対岸の亀崎より古車を譲り受けたもので、現在も大切に使われています。またどちらの山車まつりも10月の第2土曜日・日曜日です。碧南中が盛り上がるこの時期、是非山車まつりの活気を体感ください。



大浜中
大浜中区祭礼
稲荷社
碧南市浜寺町2-67

中之切車(大浜中)

なかのきりしゃ

建造時期：不明。天明8年に亀崎より古車を購入。彫刻「唐獅子」(31個)、「剣龍」大幕は猩々緋。前棚には「三番叟人形」、最上段の上山には「乱杭渡り人形」を搭載。



大浜中
大浜中区祭礼
稲荷社
碧南市浜寺町2-67

浦島車(大浜中)

うらしましゃ

建造時期：不明。昭和49年に四日市から購入。昭和63年の山車200年祭のため復元修理された。昭和49年に四日市より購入された「浦島人形」、「乙姫人形」を搭載。



新川
鶴ヶ崎区祭礼
山神社等
碧南市山神町7-40等

玉車(鶴ヶ崎)

たまぐるま

建造時期：文化10年。亀崎東組によって造られ、その後元治元年に鶴ヶ崎祭礼講が譲り受けた。代表装飾は「堆朱で線彫の四本柱」「前檣虹梁の巻龍」「手勾欄の金箔一對龍」(早瀬長兵衛吉政作)。上山全体彫刻は瀬川治助重定作。

刈谷市

山車まつり情報

刈谷市には山車まつりが2つあります。1つは刈谷山車祭で、市原稲荷神社の祭礼を盛り上げます。昭和40年(1965年)頃を最後に山車はなくなりましたが、平成14年(2002年)に着町の山車が、平成21年(2009年)には新町の山車が修復されました。もう1つは小垣江山車祭で、小垣江神明神社の祭礼に天保15年(1844年)頃登場しましたが明治期には無くなります。平成11年(1999年)に復活されて以降毎年4月の金比羅神社の祭礼と、10月の神明神社の祭礼に曳き廻しが行われています。ぜひ御覧ください。



小垣江
小垣江神明神社大祭(金刀比羅神社)
金刀比羅神社等
刈谷市小垣江町下56

小垣江の山車(小垣江)

おがきえのだし

建造時期：天保15年頃。もともとは小垣江地内屋敷の山車である。明治10年に刈谷町の正木新道に売却され市原稲荷神社の祭礼に出ていたが、戦後まもなく巡行されなくなった。平成6年に小垣江に戻り、現在に至る。



中部
刈谷山車祭
市原稻荷神社
刈谷市司町8-52

肴町の山車(肴町)

さかなまちのだし

建造時期：宝永2年。古くは正徳2年に糸からくりが行われた記録があるが、安政6年を最後に行われなくなる。部材等は保存されていない。



中部
刈谷山車祭
市原稻荷神社
刈谷市司町8-52

新町の山車(新町)

しんまちのだし

建造時期：寛政9年。山車に付属する箱には、文化10年と墨書がある。寛政11年に山飾人形が2つ出て、享和3年から糸からくりが行われていたが、安政6年を最後に中止となる。

豊田市

山車まつり情報

豊田市には、まつりに曳き出される山車や花車が数多くあります。挙母祭りは、挙母神社の例祭として寛永年間（1624～1643年）の頃から、五穀豊穡を祈り行われてきました。愛知県の有形民俗文化財に指定されている8台の山車が一堂に揃う様は圧巻です。足助祭りは、足助八幡宮の例祭で、江戸時代後期には現在の形で執り行われるようになりました。豊田市の有形民俗文化財に指定されている4台の山車のほか、火縄銃や棒の手の奉納もあり、それらを間近で見て体感することができます。その他にも市内には様々な山車まつりがあり、それぞれの地域で独自に伝わっています。



挙母
挙母祭り
挙母神社
豊田市挙母町5-1

挙母神社の山車 神明町(神明町)

ころもじんじやのだし しんめいちょう

建造時期：寛文4年。大幕に他町のような刺繍が施されていない。神明神社の祭神である不和童子（天照大神）の姿を白、赤、青の三段の幕で表現したと伝えられている。唐破風前山の前に霞幕。舞台付。後梶棒付。刺繍幕。彫刻多数。



挙母
挙母祭り
挙母神社
豊田市挙母町5-1

挙母神社の山車 中町(中町)

ころもじんじやのだし なかまち

建造時期：寛文4年。文化3年に現在の山車に改造された。唐破風前山の前に霞幕。舞台付。後梶棒付。刺繍幕。彫刻多数。



挙母
挙母祭り
挙母神社
豊田市挙母町5-1

挙母神社の山車 竹生町(竹生町)

ころもじんじやのだし たきようちょう

建造時期：不明。田原より山車を購入。上山の中央欄間に他町の山車に見られない松石書額が掲げられている。唐破風前山の前に霞幕。舞台付。後梶棒付。刺繍幕。彫刻多数。



挙母
挙母祭り
挙母神社
豊田市挙母町5-1

挙母神社の山車 旧東町(旧東町)

ころもじんじやのだし きゅうひがしまち

建造時期：寛延3年頃。挙母藩主から上山の櫻（月鑑）を拝領。唐破風前山の前に霞幕。舞台付。後梶棒付。刺繍幕。彫刻多数。



挙母
挙母祭り
挙母神社
豊田市挙母町5-1

挙母神社の山車 西町(西町)

ころもじんじやのだし にしまち

建造時期：安永7年以前。彫刻多数。高欄下の彫刻は全般的に平面彫が多く、人物だけを彫って背景が殆ど彫られていない。唐破風前山の前に霞幕。舞台付。後梶棒付。刺繍幕。



挙母
挙母祭り
挙母神社
豊田市挙母町5-1

挙母神社の山車 旧南町(旧南町)

ころもじんじやのだし きゅうみなまち

建造時期：宝暦2年。江戸時代初期、獅子舞を奉納していたが、寛延3年、挙母藩主内藤政苗公の命により獅子舞を廃止し、山車に変えた。唐破風前山の前に霞幕。舞台付。後梶棒付。刺繍幕。彫刻多数。



拳母 拳母祭り

拳母神社
豊田市拳母町5-1

拳母神社の山車 旧本町(旧本町)

ころもじんじゃのだし きゅうほんまち

建造時期：寛永13年頃。唐破風前山の前に霞幕。舞台付。後梶棒付。刺繍幕。彫刻多数。平成5年より子供歌舞伎舞が行われている。



高橋 社町八幡宮例大祭

社町八幡宮
豊田市社町1

高橋町山車(高橋町)

たかはしやうだし

建造時期：不明。明治42年3月に碧海郡矢作町大字稲目村から購入した。山車は外輪の2層構成で、下層上部後方に絵画が描かれている。彫刻「牡丹唐草」(透かし彫り。瀬川治助重光)。



拳母 宮前町祭礼

拳母神社
豊田市拳母町5-1

宮前町山車(宮前町)

みやまえやうだし

建造時期：平成15年。彫刻：「子持ち龍」「玉取り獅子」「力神」「鳳凰」(立川芳郎尚富)。「わっしょい、わっしょい」と声をだし、山車がゆっくり町内を練り歩く。



高橋 平井八幡宮祭礼

平井八幡宮
豊田市平井町2-108

平井町八幡宮の山車(平井町)

ひらいやうはちまんぐうのだし

建造時期：不明。江戸時代後期頃に購入との言い伝え。大山(上山)の後三面に鳳凰の模・提灯。3段階に高さが可変。水引幕は雲竜の刺繍、大幕は朱の無地で後方に本郷の金刺繍。小山(下山)・勾欄の横に提灯・額が取り付けられる。



高橋 平井八幡宮祭礼

平井八幡宮
豊田市平井町2-108

百々町八幡宮の山車(百々町)

どうちやうはちまんぐうのだし

建造時期：不明。高欄にうさぎなどの動物を配した彫り物が四方に飾られている。別名「提灯車」。昔は大山、高欄、中段に数十個の提灯を灯していたが、最近では昼間に曳くようになり、提灯の数が大幅に減った。



高橋 祈願祭

志賀神社
豊田市志賀町宮前405

願掛山車(志賀町)

がんかけだし

建造時期：不明。文政年間に知多郡から購入したものと伝わるが、詳細は不明。狭い道を通行するため車輪が台車の内側にある。山車の安定を保つために車輪の直径が大きい。山車前面の彫刻(瀬川治助)。水引は金糸唐獅子刺繍。



猿投 津嶋神社天王祭

津嶋神社
豊田市八草町秋合1235

天王祭りの提灯車(八草町)

てんのうまつりの ちょうちんぐるま

建造時期：不明。昔は拳母祭りで曳きまわされていたもの。三段の提灯が100個以上灯される。現在は巡行はせず、神社の正面に山車を組み立てて、提灯を吊るして、子供による囃子太鼓が行われる。



足助 足助八幡宮例祭

足助八幡宮
豊田市足助町宮ノ後12

足助八幡宮田町の山車(足助田町)

あすけはちまんぐうたまちのだし

建造時期：不明。前方に出役棚を持ち、独自の形式を有する。山車を曳いたそれぞれの町の若い衆代表が祝詞を上げた後、高くのびた竹竿の先端に飾ってあった梵天を神前に投げる。「梵天投げ」。



足助 足助八幡宮例祭

足助八幡宮
豊田市足助町宮ノ後12

足助八幡宮本町の山車(足助本町)

あすけはちまんぐうほんまちのだし

建造時期：不明。前方に出役棚を持ち、独自の形式を有する。山車を曳いたそれぞれの町の若い衆代表が祝詞を上げた後、高くのびた竹竿の先端に飾ってあった梵天を神前に投げる。「梵天投げ」。



足助 足助八幡宮例祭

足助八幡宮
豊田市足助町宮ノ後12

足助八幡宮新町の山車(足助新町)

あすけはちまんぐうしんまちのだし

建造時期：不明。前方に出役棚を持ち、独自の形式を有する。山車を曳いたそれぞれの町の若い衆代表が祝詞を上げた後、高くのびた竹竿の先端に飾ってあった梵天を神前に投げる。「梵天投げ」。



足助
足助八幡宮例祭
足助八幡宮
豊田市足助町宮ノ後12

足助八幡宮西町の山車(足助西町)
あすけはちまんぐうにしまちのだし

建造時期：不明。前方に出役棚を持ち、独自の形式を有する。山車を曳いたそれぞれの町の若い衆代表が祝詞を上げた後、高くのびた竹竿の先端に飾ってあった梵天を神前に投げる。「梵天投げ」。



足助
足助春祭り
足助神社
豊田市足助町宮ノ後12
松栄町の花車(松栄町)
しょうえいちやうのはなぐるま

建造時期：不明。桜造花を主体とした花車。屋根が和紙張りで、赤・青・白の市松模様、外囲は杉葉垣。大正年間に始まった新しい女・子どもの山車まつり。



足助
足助春祭り
足助神社
豊田市足助町宮ノ後12

宮町の花車(宮町)
みやまちのはなぐるま

建造時期：不明。装飾は桜の木を中心に桜の花びら等で飾り付け、花車の腰回りは杉の葉を巻きつける。大正年間に始まった新しい女・子どもの山車まつり。



足助
足助春祭り
足助神社
豊田市足助町宮ノ後12
西町の花車(西町)
にしまちのはなぐるま

建造年：昭和初期頃。桜の造花、ふじのつる、杉の葉に造花を飾り付け。花車の前後に、日月・西若の額を掲げる。大正年間に始まった新しい女・子どもの山車まつり。



足助
足助春祭り
足助神社
豊田市足助町宮ノ後12

新町の花車(新町)
しんまちのはなぐるま

建造時期：不明。ふじのつる、造花等で飾り付け。大正年間に始まった新しい女・子どもの山車まつり。



足助
足助春祭り
足助神社
豊田市足助町宮ノ後12
本町の花車(本町)
ほんまちのはなぐるま

建造時期：不明。ふじのつる、造花等で飾り付け。大正年間に始まった新しい女・子どもの山車まつり。



足助
足助春祭り
足助神社
豊田市足助町宮ノ後12

田町の花車(田町)
たまちのはなぐるま

建造時期：不明。ふじのつる、造花等で飾り付け。大正年間に始まった新しい女・子どもの山車まつり。



足助
足助春祭り
足助神社
豊田市足助町宮ノ後12
親王町の花車(親王町)
しんのうちやうのはなぐるま

建造時期：不明。ふじのつる、造花等で飾り付け。大正年間に始まった新しい女・子どもの山車まつり。



足助
霧山の祭り
白山神社
豊田市霧山町高山2

山車(霧山町)
だし

建造時期：不明。豊田市寺部から明治20年代に購入されたものと伝えられる。彩色もない白木で彫刻類も極めて少ない。



足助
熊野神社秋の大祭
熊野神社
豊田市明川町フセタ4
明川の山車(明川町)
あすがわのだし

建造年：不明。それまでの山車は老朽化したため、明治34年新調（安藤金平、水野正志）。山車が棄損しているため、巡行不能。



足助

秋の例大祭

連谷神明神社

豊田市連谷町森腰3

連谷の山車(連谷町)

れんだにのだし

建造年：昭和25年頃(鈴木梅吉、山下秋夫、松下武雄、林良知)。これ以前にも古い山車があったと伝えられているが、詳細は不明。



足助

八幡神社秋の祭典

八幡神社

豊田市五反田町ナギタ29

五反田の山車(五反田町)

ごたんだのだし

建造時期：不明。詳細は不明である。打囃子及び棒の手が奉納される。

安城市

山車まつり情報

ＪＲ東海道本線「安城駅」前、南明治地区の氏神である八幡社の境内に3棟の山車蔵が建てられ収蔵されています。この辺りは明治時代以降になってから新しく開けた地区で、かつて映画館や料亭などもあり、安城市内では最も賑やかな場所でした。山車は、いずれも昭和30年代以降に造られ、4月の大祭で曳き廻されていましたが、現在は行われていません。



安城

八幡社大祭

八幡社

安城市花ノ木町13-1

山車(末広町)

だし

建造時期：昭和30年代(安城出身の宮大工)。唐破風を四本柱で支え、脇障子が付き、下には壇箱がある。壇箱などには彫刻が入れられている。担い手不足と山車の棄損により現在巡行不能。



安城

八幡社大祭

八幡社

安城市花ノ木町13-1

山車(栄町)

だし

建造年：昭和30年代。唐破風を四本柱で支え、脇障子が付き、下には壇箱があり、周囲を高欄で囲んでいる。壇箱などには彫刻が入れられている。下部に引き出し式の舞台を内蔵。担い手不足と山車の棄損により現在巡行不能。



安城

八幡社大祭

八幡社

安城市花ノ木町13-1

山車(御幸町)

だし

建造年：昭和30年代。唐破風を四本柱で支え、脇障子が付き、下には壇箱があり、山車全体の周囲を高欄で囲んでいる。壇箱などには彫刻が入れられている。下部に引き出し式の舞台が内蔵されている。担い手不足により現在巡行不能。

西尾市

山車まつり情報

西尾祇園祭は江戸時代より行われている伊文神社の祭礼です。西尾城内の御劔八幡宮への神輿渡御が祭りの根幹です。現在は7月中旬の金土日に行われます。このうち、肴町の大名行列、天王町の神楽獅子などの祭りを彩る城下の表六力町の練り物は正徳年中(1711～1716年)に始まったと伝えられ、城主の許可を得て、城内への入城もあり大いに賑わいました。その練り物の一つで、現在もその姿を見ることができるものが、中町の大屋形です。この大屋形は2階の踊り場を滑車で上下できるのが特徴です。現在の祭礼の時は2階でお囃子を奏でて、街中を練り歩きます。



西尾

西尾祇園祭

伊文神社

西尾市伊文町17

中町の大屋形(中町)

なかまちのおおやかた

建造時期：江戸時代。2階の踊り場を滑車で上下できる。他に船屋形など2台が倉庫で保管されているが、現在は使用していない。現在は市のキャンペーンレディーと三味線奏者が乗車。

知立市

山車まつり情報

知立まつりは知立神社の祭礼で承応2年(1653年。「中町祭礼帳」)から続いており、毎年5月2日、3日に行われます。1年毎に本祭(ほんまつり)と間祭(あいまつり)が交互に行われ、本祭には豪華絢爛な5台の山車が、間祭には花飾りで彩られた5台の花車が奉納されます。本祭では、山車文楽と山車からくりの人形芝居が上演され、伝統芸能を間近に感じることができます。また、山車の後方にある梶棒を担ぎ上げたまま知立神社境内に宮入りする様子は、まさに圧巻であり、多くの人びとを魅了します。知立は「大あんまき」も名物です。お越しの際は是非ご賞味ください。



知立

知立神社例祭

知立神社

知立市西町神田12

山車(中新町)

だし

建造時期：平成8年復元新調。記録によると山車の初奉納は承応2年。山車上で三人遣いの人形浄瑠璃芝居(文楽)が上演される。明治40年頃までは、からくり人形「百合若高麗車記」を上演していたが、現在はからくり人形は演じられていない。



知立
知立神社例祭
知立神社
知立市西町神田 12

山車(本町)
だし

建造時期：不明。記録によると山車の初奉納は承応2年。前戸屋に寛政6年の墨書。大正時代、人形芝居に替わり手踊り。現在は人形浄瑠璃芝居（文楽）が復活。江戸時代にあったからくり人形「聖徳太子絵伝記」は明治以後は上演せず。



知立
知立神社例祭
知立神社
知立市西町神田 12

山車(山町)
だし

建造時期：不明。記録によると山車の初奉納は承応2年。古い台輪に万延元年墨書。山車上で三人遣いの人形浄瑠璃芝居（文楽）が上演。大正5年頃までは、からくり人形「平治合戦」を上演していたが、現在は演じられていない。



知立
知立神社例祭
知立神社
知立市西町神田 12

山車(西町)
だし

建造時期：不明。記録によると山車の初奉納は承応2年。古い台輪に万延元年墨書。上層でからくり「一の谷合戦」を上演。江戸時代には他町でもからくり芝居が演じられていたが、現在は西町のみ継承。明治の末までは文楽も上演。



知立
知立神社例祭
知立神社
知立市西町神田 12

山車(宝町)
だし

建造時期：不明。昭和22年に刈谷市泉田より購入。古い台輪に天保2年の墨書。宝町は他町と異なり山車がなく、かつてのまつりの中心は獅子舞と囃子。平成16年から他町にならい山車上で三人遣いの人形浄瑠璃芝居（文楽）を上演。



知立
知立神社例祭
知立神社
知立市西町神田 12

花車(中新町)
はなぐるま

建造時期：昭和52年。塗りや彫刻・金工等は少なく質素。その代わり屋根等に花飾りがつく。まつりは隔年ごとに行う取決めで、特別なことがあった時に間まつりを実施。昭和50年以降は若衆のまつりとして間まつりが復活。



知立
知立神社例祭
知立神社
知立市西町神田 12

花車(本町)
はなぐるま

建造時期：昭和56年。塗りや彫刻・金工等は少なく質素。その代わり屋根等に花飾りがつく。まつりは隔年ごとに行う取決めで、特別なことがあった時に間まつりを実施。昭和50年以降は若衆のまつりとして間まつりが復活。



知立
知立神社例祭
知立神社
知立市西町神田 12

花車(山町)
はなぐるま

建造時期：昭和60年。塗りや彫刻・金工等は少なく質素。その代わり屋根等に花飾りがつく。まつりは隔年ごとに行う取決めで、特別なことがあった時に間まつりを実施。昭和50年以降は若衆のまつりとして間まつりが復活。



知立
知立神社例祭
知立神社
知立市西町神田 12

花車(西町)
はなぐるま

建造時期：昭和54年頃。塗りや彫刻・金工等は少なく質素。その代わり屋根等に花飾りがつく。まつりは隔年ごとに行う取決めで、特別なことがあった時に間まつりを実施。昭和50年以降は若衆のまつりとして間まつりが復活。



知立
知立神社例祭
知立神社
知立市西町神田 12

花車(宝町)
はなぐるま

建造時期：昭和62年。塗りや彫刻・金工等は少なく質素。その代わり屋根等に花飾りがつく。まつりは隔年ごとに行う取決めで、特別なことがあった時に間まつりを実施。昭和50年以降は若衆のまつりとして間まつりが復活。

みよし市

山車まつり情報

みよし市には3台の山車があり、天王神社の秋の例大祭で1台、三好八幡社の秋の大祭で2台が五穀豊穡を祈って曳き廻されます。天王神社の大祭で曳き廻される山車は、平成16年に焼失した山車を平成26年に復元したものです。また、三好八幡社秋の大祭では、江戸末から明治初期にかけての建造である市指定有形民俗文化財の山車2台を、囃子の音色とともに威勢のいい男衆が区内を曳き廻します。夜になると、約200個の提灯に灯がともされ、夜空に美しく浮かび上がるさまは、優雅そのもの。囃子の音色と提灯あかり、音と光の饗宴が、幻想的な秋のひと時を演出します。



三好下 三好八幡社秋の大祭

三好八幡社
みよし市三好町宮ノ腰30

三好下区山車(三好下)

みよししくみだし

建造時期：不明。作者は町内の大工。名前は不明。黒の漆塗り、金具は銅板、手彫りの彫刻には金箔。安政5年頃から新屋天王神社の夏の大祭に奉納。慶応元年、山車が転覆したことで中止。それ以来、三好八幡社の例祭の余興となる。



三好上 三好八幡社秋の大祭

三好八幡社
みよし市三好町宮ノ腰30

三好上区山車(三好上)

みよししくみだし

建造時期：明治6～8年（石川貞蔵ら作）。素木だったが、明治18年に金箔を施す。黒うるし塗り、彫刻に舶来金箔、金具に銅板を使用。山の巻簾に尺丸太の白提灯180個～200個を半円形にさし、紋入り提灯70個ほどを献燈奉納。



新屋 天王神社秋の例大祭

天王神社
みよし市三好町天王46

新屋区山車(新屋)

あらやくだし

建造時期：平成26年9月。平成16年10月焼失の山車を復元。焼失した山車は明治25年頃、山本磯平らが建造。正面高欄下には螺鈿を張る4本柱で支えられた前山。彫刻「力神」(前壇)が素木であるが、その他は金箔をはっている。